学習指導案　略案様式（特別の教科　道徳を除く）

６年１組	指導者	○○○○	教科等	理科

単元

単元名等	ものの燃え方

目標	評価規準	←※どちらかを選択し、　で囲ってください。
知識及び技能	知識・技能	○物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを理解している。 ○燃焼の仕組みについて、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。
思考力、判断力、表現力等	思考・判断・表現	◆燃焼の仕組みについて、問題を見いだし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ○燃焼の仕組みについて、観察、実験などを行い、物が燃えたときの空気の変化について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。
学びに向かう力、人間性等	主体的に学習に取り組む態度	○燃焼の仕組みについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ○燃焼の仕組みについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

単元の学習展開（全１０時間）

導入	□問題を見いだし、学習計画を立て、見通しをもつ
展開	□予想や仮説を基に、観察、実験などを行い、結果を考察する ・ろうそくの燃え方と空気の動きの関係について ・ろうそくが燃える前と後の空気の変化について ・木や紙が燃えたあとの空気の変化について
終末	□物が燃えたときの空気の変化についてまとめる

本時（４／全１０時間）

ねらい	燃焼の仕組みについて、蓋をした集気びんの中で、ろうそくが消える様子を観察したり、ろうそくの燃焼前後の空気は何が違うのかを予想したりすることを通して、問題を見いだすことができるようにする。　（下線部…単元の評価規準との関連【◆思・判・表　記述分析・発言分析】）
学習過程	「めあて」 「物が燃えるときの空気の変化について考えよう」 「振り返り」の視点 ・わかったことやもっと調べたいこと

努力を要する状況の児童生徒に対する手立て	【予想されるつまずき】	【必要な支援・手立て】
	観察の内容を記録できない	整理するための視点を示して記録させる
	観察に集中できない	観察対象を録画し、ＩＣＴ端末で繰り返し見られるようにしておく
	問題を見いだせない	ろうそくの燃焼と空気の関係について、友だちと話し合わせるなど、個に応じた言葉かけを行う